

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実施地区 : 根室地区
- 2 研修者氏名 : 住吉 幹城 (別海町立別海中央小学校)
- 3 研修実施日 : 平成25年12月12日(水)～14日(金)
- 4 研修先 : 神奈川県茅ヶ崎市立浜之郷小学校・東京都千代田区立和泉小学校
- 5 研修目的 : 校内研修の活性化
- 6 キーワード : 学び合い 言語活動 校内研修 可視化 チーム力

1 はじめに

今日、「学び合い」活動などによる「言語活動の充実」が注目されています。それは生きる力としての課題解決に必要な思考力、判断力、表現力などを育むために必要不可欠なものだからです。

このたび開校以来「学び合い」を深く追究している茅ヶ崎市立浜之郷小学校と「書くこと」を切り口に「学び合い」を研究している千代田区立和泉小学校を訪問しました。2校の視察から学んだ研修の成果を、本校の学校経営に生かしていきたいと思えます。

2 茅ヶ崎市立浜之郷小学校の実践

浜之郷小学校は、開校から16年間、変わることなく「同僚性の構築と自律性の樹立を基盤とした校内研修」を中軸に、学校に集う職員と子どもたちの「学びの共同体」(支えあい・聴きあい・学びあい)を展開しています。その考えの下、「学校経営の基本構想」に(1)子どもの学ぶ権利を一人残らず保障し、子どもたちが学び合い育ちあう学校、(2)教職員が一人残らず教育の専門家として成長しあえる学校、(3)保護者と地域の市民もともに学び、教職員と協力し連帯して創りあげる学校を掲げ、常に子どもの学びと職員相互の学びを中心に、様々な取組を行っています。

その取組の一つである(2)の教職員の学びの取組では、「子どもたちの学ぶ権利を一人残らず保障するために」次のようなことが取り組まれています。

- ①教職員の姿勢～・学びあう関係づくり ・謙虚さ、細やかさ、やわらかさ、しなやかさ、配慮、応答、身のこなし ・あきらめない、責任転嫁しない ・つまづきや失敗から学ぶ ・学び続ける ・当たり前のことを当たり前普通のことを普通に

②学ぶ場としての校内研修の在り方

- 《授業公開》～・授業、授業づくりを同僚に開く ・個人研究テーマを設定する ・自分らしい授業をめざす ・質の高い授業をめざす
・「教室の事実をつかむ目」を養う
・年1回の教育研究発表会、月1回の授業研究協議会を全国の教職員に公開する

- 《授業研究会》～・観察した教室の事実に基づいて、どこで子どもの学びが深まり、どこでつまづいたかを話題にする ・授業の巧拙ではなく、授業を見て、そこから自分自身が学んだことを話題にする ・「こうした方が良かった」などの指導や助言は控え、そう思うのであれば自分が授業で行って見せる。

- 《ケアリングと学年授業研究会》～・ケアリングを全ての教育活動の基盤と考える ・学年授業研究会より実践的に学びあう ・担任の「気になっていること」を基にした



《研究協議会の様子》

事例研究 ・ケース会（授業を基にスクールカウンセラー、心の教育相談員等と）

③学校運営システムの改善～子どもと接する時間を十分に保障し大切にすること ・一役一人制を推進すること ・「教師の生きがい」を回復すること

その具合的な取組の一つである授業研究協議会を「参観」した様子を紹介します。「参観」としたのは、協議会に参加できるのは当該校の教職員だけだからです。外部からの参観者は、最後に「感想」を述べる場があるだけで協議には参加できません。その協議会では前述の《授業研究会》で示されていることが忠実に守られ、私がこれまで経験してきた「事後研究協議」とは異質なものでした。協議会では授業の出来の善し悪しが検討されることはありません。その授業でどの子がどのように学んだか、どのように関わり合いを持ち考えが変わっていったのか、そして授業参観から何を学んだのかが協議されます。様々な視点から学びの場面を取り上げ、深く追究する浜之郷小学校の教職員の資質の高さに驚かされました。正に学ぶ場としての研究協議会でした。

3 千代田区立和泉小学校の実践

開校20周年を迎えた和泉小学校を訪問しました。和泉小学校は「思いを伝え 受けとめ 学び合う」をテーマに、書く力を育むための研究を続けています。その研究にあたって、(1) 社会科や理科の学習内容に国語科の「書くこと」を活用していく独自の手法。(2) 教師による「文章サンプル」を作成し、指導の共通理解と可視化の工夫。(3) 「3つの学習過程」(個から始まる→学び合う→個に生きる)を設定し、自らの考えを創り出し、互いに高め合い、深め合っていく学習サイクルの確立。(4) 「授業時間から」(作文活動)と「日常的な活動から」(言葉の力を高める基礎作り)の双方向からのアプローチ。これらの実践研究は、学年発達を踏まえた全教師の共通理解、共通実践の校内体制によって成り立っています。

その取組の中から(4)の「日常的な活動から」(言葉の力を高める基礎作り)について、実践の様子を紹介します。和泉小学校では「言葉の力を高める基礎作り」の活動の一つとして、朝の「ことばスキル・読書タイム」を実践しています。「ことばスキル」の取組の様子を参観してきました。一人で黙々と取り組む子、ペアでお互いに聴き合いながら取り組む子、様々でしたが、目標は検定会で段位を上げ、最後には「名人」を目指すことです。この検定制度も様々な工夫がなされていて、例えば「6年生ことばスキル検定表」には、「本読みレシピ」「ことばの貯金」「暗唱」「辞書引き検定」の4つの分野でそれぞれハードルが設定されています。それら全部をクリアして段位を獲得することができる仕組みです。「本読みレシピ」は、朝読書と連動して幅広い読書を目指して考案されています。「ことばの貯金」では言葉調べ、「暗唱」では詩や俳句、名著の一部の暗唱、「辞書引き検定」では、指定の単語を制限時間内に調べるといったものです。一つ一つが工夫され楽しみながら着実に言葉の力がつくように実践されていました。

6年生ことばスキル検定表

検定項目	検定時間	検定内容	検定目標
暗唱(詩・歌)	3分	1行の言葉を覚えて読む	3分30秒以内
ことばの貯金	6分	1行の言葉を覚えて読む	3分以内
辞書引き検定	9分	辞書引き(1行)	2分30秒以内
暗唱(詩・歌)	12分	1行の言葉を覚えて読む	2分15秒以内
ことばの貯金	15分	1行の言葉を覚えて読む	2分以内
辞書引き検定	18分	辞書引き(1行)	1分45秒以内
暗唱(詩・歌)	21分	1行の言葉を覚えて読む	1分30秒以内
ことばの貯金	24分	1行の言葉を覚えて読む	1分15秒以内
辞書引き検定	27分	辞書引き(1行)	1分以内
暗唱(詩・歌)	28分~	1行の言葉を覚えて読む	45秒以内

《6年生のことばスキル検定表》

4 おわりに

両校の訪問を終え、本校の学校改善のヒントをたくさんいただきました。浜之郷小学校では研究協議会での教職員間の「学び合い」、和泉小学校では「ことばスキル検定」に向けた子ども同士の「学び合い」やその取組に向けた教職員間の連携の姿。いずれの学校も教職員が一つになってチーム力で力強く実践している姿を見ることができました。一つでも多く本校の実践に生かしていきたいと考えています。最後に、このように貴重な機会を与えていただいた事に感謝申し上げます。